

インドネシア語における「*se-*」という接頭辞
Prefix "*Se-*" in Bahasa Indonesia

Abdul Gapur, Taulia, Mhd. Pujiono

Faculty of Language and Communication, Universitas Harapan Medan.

Email: a.ghafur@rocketmail.com, taulianasrun@gmail.com, mhd.pujiono@usu.ac.id

Abstract

This paper aims to describe the function of the prefix "*se-*" in Bahasa Indonesia. The approach is qualitative and uses descriptive methods. Data are words that begin with "*se-*" in the Indonesian dictionary. As a result, "*se-*" has seven meanings in Indonesian, "one," "all," "same," "similar," "at the same time," "how many," and "most." In addition to the meanings listed above, several words beginning with "*se-*" are single words that stand alone (free morphemes), such as "*senyawa*," "*seberang*," "*sekarang*," "*selada*," "*sekutu*," and "*setawar*," among others.

Keywords: prefix "*se-*", Indonesian, affixes

要旨

本稿はインドネシア語の「*se-*」という接頭辞の機能を述べることを目的とする。定性的なアプローチで、記述的方法を用いる。データはインドネシア語辞書にある「*Se-*」という接頭辞をつける単語である。結果は、インドネシア語には接頭辞の 7 つの機能があることが理解でき、すなわち「いち・一つ」、「すべて・全部」、「同じ・同様」、「似ている・～よう～」、「同時に・その時」、「能力測定」、「一番・最も」である。上記の以外にも、「*se-*」が付くような言葉がいくつかあるが、単独単語（自由形態素）であるから、接辞は含まない。たとえば、「*senyawa*」、「*seberang*」、「*sekarang*」、「*selada*」、「*sekutu*」、「*setawar*」などである。
キーワード：「*se-*」接頭辞、インドネシア語、接辞

はじめに

インドネシア語は、膠着語であるオーストロネシア語族に含まれている。膠着語とは、文法的な関係や単語の構造が言語要素の組み合わせによって自由に表現される言語の一種を意味する。この場合、語形成は接辞によって行える。(Darlina & Dyah, 2017).

接辞は、基本形式または基本形式に接辞を添付するプロセスである。(Hardyanti et al., 2017).接辞プロセスは基本的な形での接辞の分布に基づいて 4 つのタイプに分類でる。(1) 接頭辞、接辞を左側または基本形式の前に追加するプロセス。(2) 接尾辞、これは、接辞を右側または基本形式の後に追加するプロセス。(3) 接中辞、基本形で接辞を挿入するプロセス。(4) 共接辞。基本形の左及び左側に接辞をつけるプロセスである。この接辞プロセスは、インドネシア語を学ぶ人々、特に外国人にとっての課題である。たとえば、「*se-*」という接頭辞には、「一つ」を意味がある。しかし、「同じ・沿って」という意味もある。例えば、「*sebuah*」及び「*sejalan*」という単語である。

「*se + buah*」は「一つの物」を表すが、
(物・果物)

「*se + jalan*」は「一つの道」ではなく、「同じ」を表す。
(道)

例文：

1. Rini membeli sebuah Mangga.
リニさんはマンゴーを一つ買います。
2. Rini memiliki pemikiran sejalan dengan dengan Ayahnya.
リニさんは父親と同じ考えを持っている。

上記の例は、接頭辞「*se~*」には多くの機能があり、付けられた単語の意味に影響を与えることを示している。

本稿では、インドネシア語の接頭辞の機能と形式について述べる。その目的は、インドネシア語学習者、特にインドネシア語を学習している外国人が、「*se~*」という接頭辞の使用法を理解しやすくすることである。また、言語科学、特に形態学分野の研究者の参考となることも期待される。

理論

接辞

Putrayasa (Putrayasa, 2010, p. 5)によると、接辞とは、単数形式及び複合形式の両方で、基本形に接辞を付けることによって単語を形成するプロセスである。たとえば、接辞「*me-*」を基本形（語幹）「*ambil*」に付けると、「*mengambil*」になり、「*benci*」は「*membenci*」、「*bolak-balik*」は「*membolak-balik*」などになる。もう 1 つの例は、接辞「*ber-*」を基本形「*runding*」に付けると、「*berunding*」になり、「*main*」は「*bermain*」、「*Sepeda Motor*」は「*bersepeda motor*」などになる。これらの例に基づいて、接辞の接辞は、「*ambil*」や「*benci*」などの単数形で発生する可能性があり、「*sepeda motor*」や「*bolak-balik*」などの複合形でも発生することが理解する。

Kridalaksana (2009)によると、接辞は別の形式に追加されると文法上の意味が変わるバインドされた形式である。基本的な単語は、単純なものから複雑なものまで、どのような形でも構わない。接辞は、インドネシア語の単語形成に非常に効果的である。これは、インドネシア語が「膠着」言語として分類されているために発生します。膠着では、他の要素または形式を添付することによって要素が形成される言語システムである。接辞は、膠着的な言語で最も一般的なプロセスである。

接辞プロセスは、拘束形態素が自由形態素に追加されたときに発生する (Parera, 2010, p. 18).

形態素結合とは、自由形態素及び拘束形態素、または自由形態素及び自由形態素を複合形として組み合わせたものである。たとえば、「*membeli*」という単語には、自由形の「*beli*」及び拘束形の「*me~*」という 2 つの直接的な要素で構成されている。「*beli*」は直接形成できるため自由形と言われている。

例文: *Jangan beli buku itu karena buku itu sudah lusuh.*

その本は古くなっているので、買わないでください。

一方、「*me~*」は、直接話でも文法的でも単独で立つことはできず、常に他の単語に結び付けられているため、その形は拘束形と言われている。したがって、「*me~*」は接辞を含み、各接辞は拘束形である。つまり、通常の会話では、これらの形はつかなく、文法的に常に他の形式に関連付けられている。たとえば、「*dicuci*」という単語の「*di~*」は接辞を含むが、「*di rumah*」や「*di sekolah*」などの「*di*」は文法的に形態素であるから、接辞を含まない。このような「*ke sekolah*」、「*ke rumah*」、「*ke rumah*」、「*dari kampus*」、「*dari sekolah*」などの「*ke*」及び「*dari*」も同じである。「*di*」、「*ke*」、「*dari*」は、前置詞として分類されてい

る。ただし、「接辞」に属する「ke」もある。例えば「**kedua**」、「**ketua**」、「**kekasih**」にある。

接辞プロセスで、接辞を付けると、基本形が品詞に変え、意味を変える。たとえば、単語「Minum」に接辞「~an」は、「Minuman」になる。この状況では、品詞に変更（飲む—飲み物）があり、動詞が名詞になる。また、意味も「液体を口に入れて飲む行為」から「飲むもの」に変わる。

接辞の種類

造語の過程でさまざまな接辞がある。接辞は、基本形態素との関係で占める位置に応じて、正式に三つの主要なクラスに分類でき、それは接頭辞、接中辞、接尾辞と述べられる (Dewi et al., 2021; Guesa & Aninditya Sri, 2019; Putrayasa, 2010)。

インドネシア語の接辞は、その起源に基づいて、次のように 2 つのタイプに分類する。

1) 元の接辞、つまりインドネシア語に由来する接辞。

たとえば、「me-、ber-、ter-、-em-、-er-、-el-、-kan」など。

このような接辞が付けられた単語の例：

「memasak」、「berpisah」、「terlambat」、「gemetar」、「gerigi」、「leluhur」、「putuskan」など。

2) 外来語の接辞、つまり外国語または現地語に由来する接辞。たとえば、「-isme、-isasi」など。

例：「komunisme」、「organisasi」など。

語形成過程における位置に基づいて、接辞は次のように 9 つの部分に分けられる。

1. 接頭辞（プレフィックス）、基本形の前に置かれる接辞。

例：「me-、ber-、ter-、pe-、per-、se-」

2. 接中辞（インフィックス）、基本形の中に配置される接辞。

例：「-er-、-el-、-em-、-in-」。

3. 接尾辞（サフィックス）、基本形の後ろに配置される接辞。

例：「-an、-kan、-i」。

4. サイマルフィックス、基本的な形に融合された分節の特徴によって現れる接辞。インドネシア語では、基本形の最初の音素が鼻音化されることで、シムルフィックスが表される。その機能は、動詞を形成し、名詞、形容詞、または他の品詞を言語化することである。次の例は、非標準のインドネシア語で見られる。「santai」==>「nyantai」

「kopi」==>「ngopi」。

「sate」==>「nyate」

「kebut」==>「ngebut」

「sabut」==>「nyabit」

5. コンフィックス、基本形の前及び後ろの二つの要素からなる接辞。

コンフィックスは分割された形態素として機能する。接辞は、結合接辞と区別する必要がある、1つの文法上の意味を持つ形態素としてであるが、結合接辞は複数の形態素の組み合わせである。

インドネシア語の接頭辞の例としては、「ke-an」、「pe-an」、「per-an」、「ber-an」などがある。

接辞の適用は、「keadaan」という言葉に見られる。「keadaan」は、「ada」の基本的な形に対立「ke-an」を付けることによって発生する。「ke-」と「-an」が一緒に追加され、「keadaan」という単語が形成される。同様に、「bersamaan」、「pekerjaan」、「kehidupan」などである。

6. 接辞の結合（接辞の組み合わせ）、基本形によって結合された2つ以上の接辞の組み合わせ。接辞は特別な種類ではなく、独自の文法形式と意味を持ついくつかの接辞の組み合わせであり、基本的な形で同時に表示されますが、異なるプロセスから来るか、徐々に表示される。インドネシア語の接辞結合の例としては、「me-kan」、「me-i」、「meper-kan」、「memper-i」、「ber-kan」、「ter-kan」、「per-kan」、「pe-an」、「se-nya」など。例えば「memperkenalkan」という言葉には、2つの接頭辞（「mem」と「per」）及び1つの接尾辞「~kan」が付く。
7. 超分節接辞は、超分節特性または超分節形態素に関連する接辞。これらの接辞はインドネシア語では存在しないが、地域の言語、たとえばバタク語にある。
8. 接合辞（インターフィックス）、2つの要素の間に表示される接辞。インドネシア語では、新しく形成された単語に見られる。たとえば、「Indonesia」と「logi」を組み合わせた「-n-」と「-o-」は、「indonesianologi」になる。
9. 貫通接辞（トランスフィックス）、基本形が分割される原因となる接中辞である。この形式は、アラビア語を含むアフリカ系アジア言語に見られる。

本稿では、接辞の1つの形式、「se-」接頭辞について記述する。

接頭辞

接頭辞とは、語根または基本形の先頭に追加される接辞であり、プレフィックスとも呼ばれる。Chaer (2012, p. 178)によると、単語の基本形の前に追加される接辞である。一方、Keraf (2010, p. 94)によると、単語と基本形 (basic word) の前で構造的に結び付けられる要素である。さらに、Kridalaksana (2009, p. 198) は、単語の前に追加される接辞であると述べる。

研究方法

本稿は定性的研究であり、方法は記述的方法である。このような方法は、インドネシア語の「se~」という接頭辞の詳細な説明を提供する。記述的方法とは、調査対象や対象物をそのまま明らかにすることによる問題解決の手順であり、調査が行われた時点の事実に基づいていることである。データは、2008年に「ジャカルタ国立教育省言語センター」によって編集された「Kamus Bahasa Indonesia (インドネシア語辞書)」(Pusat Bahasa, 2008)から取得した。データの分析には、研究者は調査結果を完全に記述することによって記述的な方法を使用する。

討論

「se-」という接頭辞は、「一」を意味する「sa」という言葉に由来するが、単語構造のストレスにより、母音の「a」が「e」に弱められている。接頭辞「se-」にはフォームのバリエーションはありません。接辞は、接辞が付けられている単語の形の前にそれをひもでつなぐことによって行われる。接頭辞 se-の意味は次のとおりである。

1. 「いち・一つ」という意味を現す。これは測定単位を表す名詞に追加される。

例：

「serombongan」
「sebuah」
「sehari」
「semalam」
「sekelompok」 など。

例文： Budi menginap **sehari** di rumah nenek.

Budi さんは一日におばあさんの家に泊まっている。

2. 「すべて・全部」の意味を表す。「se-」を名詞に追加する必要がある。

例:

「sedunia」
「sedesa」
「sekampung」 など。

例文： Hari ini penduduk sekampung menonton pertandingan sepak bola.

今日、村人たちの**すべて**はサッカーの試合を見ている。

3. 「同じ・同様」の意味を表す。

例:

「senasib」
「secara」
「seragam」 など。

例文： Kisah gadis itu senasib dengan kisah temanku.

少女の物語は、私の友人の物語と**同じ**運命をたどっている。

4. 「似ている・～よう～」という意味を表す。これは形容詞と結合する。

例:

「sebesar」
「seluas」 など。

例文： Rumah Agus memiliki kolam **seluas** kolam pemandian ini.

Agus さんの家は、この大きい入浴用プールのようなプールがある。

5. 「同時に・その時」を表す。これはいくつかの動詞と結合する。

例:

「sepulang」
「sedatang」
「sesampai」

例文: Sesampai Ayah di kantor, Ayah langsung bekerja.

お父さんは会社に着くと、**その時に**すぐ仕事する。

6. 「能力測定」を表す. このような「**se~**」は、態度や能力を表す動詞と結合する.

例: 「sepuas」
「sedapat」
「sekenyang」
「semampu」

例文: Rita mengerjakan tugas itu **sedapat** mungkin.
Rita さんは**できるかぎり**その宿題をする。

7. 「一番・最も」を表す。形容詞重複（疊語）と結合する。

例:
「setinggi-tingginya」
「sepandaipandainya」
「serajin-rajinnnya」
「secepatcepatnya」

例文:

Secepat-cepatnya orang itu mengendarai motor, dia akan terlambat sampai di kantor.
その人は**最も**早いバイクを運転すると、会社に遅れる。

上記の意味に加えて、**se-** 接頭辞を付ける場合、いくつかの単語に他の意味を与えることもできる. たとえば、「nyawa」という言葉に「**se-**」を追加すると「**senyawa**」になる。もともと辞書によれば、「人間や動物などを生み出す肉体（物理的生物）に生命を与えるもの」という意味を持っていた「nyawa」が特定の比率で異なる 2 つ以上の元素からなる純粋で均一な物質を意味する「**senyawa**」になる。このことから、接頭辞のように見える「**senyawa**」

（『nyawa』という言葉に『**se~**』を結合）は、接頭辞ではなく、独立であることが理解する。

別の例は、「berang」という単語である。辞書の「berang」は、非常に怒っている、または非常に動揺していることを意味する形容詞である。しかし、「berang」に「**se-**」を追加すると、「**seberang**」という単語になる。「seberang」は名詞になり、「向こう側（川、道路、海など）」の意味を持つか、「私たちの反対側の場所」を意味する場合がある。

さらに、「karang」という単語を見ると、「サンゴ動物の生息地として、花虫類（背骨のない）または有機岩の種の小動物によって放出された物質から形成された海の石灰岩」という意味である。「**se-**」を付けると「**sekarang**」となり、「この時（時間、瞬間）、今」という意味の名詞である。

「lada」には、「味がスパイシーで黄白色の穀物」を意味する単語がある。「**se**」を付けると「**selada**」になり、通常サラダとして食べられる緑の野菜を意味する。「kutu」は「動物や人間の血を吸う翼のない寄生虫」を意味する。「**se-**」を付けると、「味方」を意味する

「**sekutu**」という単語になる。「sekutu」は、動物や人間の血を食べるノミやその他の昆虫に関連する意味を持たなくなった。

もう一つの追加の例は、「tawar」という単語で、味に関するもの、つまり「味が無い、塩味が少ない、おいしくない（食品に関連する）または味が無い」という意味である。そ

の単語は「setawar」になると、味と意味を持たなく、「菓を多くの種類の菓用にすることができる植物」になった。

上記の例から、いくつかの単語では、「se-」という接頭辞を追加すると、その単語は独立できる統一性を持つことが理解できる。本稿では、上記の例のような単語に見られる接頭辞の意味の変化、または語根の意味及び形を変えた語については議論しない。

結論

インドネシア語の「se-」という接頭辞には多くの機能がある。「se-」の機能も、配置ごとに異なる意味を形成し、「いち・一つ」、「すべて・全部」、「同じ・同様」、「似ている・～よう～」、「同時に・その時」、「能力測定」という意味を記述する。その上、形容詞重複（疊語）が続く場合、「se-」接頭辞は「一番・最も」という意味を記述する。また、接頭辞ではなく、単独語で「se-」が付く語もある。たとえば、「senyawa」、「seberang」、「sekarang」、「selada」、「sekutu」、「setawar」などという単語である。

参考文献

- Chaer, A. (2012). *Linguistik Umum* (Edisi Revi). Rineka Cipta.
- Darlina, L., & Dyah, W. (2017). AFIKS VERBA DERIVATIF BAHASA JEPANG (KAJIAN TIPOLOGI LINGUISTIK). *ASA*, 4. <https://journal.unesa.ac.id/index.php/asa/article/view/2476>
- Dewi, I. T., Pramanik, N., & Utorodewo, F. . . (2021). The production of affixes in the writings of Indonesian children aged 10-11 years. In N. Nazarudin & V. Engelenhoven (Eds.), *On Language, Education, Politics, and Identity: A Cross-Linguistics Perspective* (Languages, pp. 213–229). Nova Science Publishers, Inc. <https://novapublishers.com/shop/on-language-education-politics-and-identity-a-cross-linguistics-perspective/>
- Guesa, M., & Aninditya Sri, N. (2019). Morphological Material Analysis Of Affixation In 2013 Curriculum Thematic Teaching Books In Indonesia. *International Journal of Scientific & Technology Research*, 8(12). <https://www.ijstr.org/paper-references.php?ref=IJSTR-1019-23031>
- Hardyanti, S., Wagiran, W., & Utami, S. P. T. (2017). Perbandingan Afiks Pembentuk Verba Bahasa Indonesia dan Bahasa Jawa. *Jurnal Sastra Indonesia*, 6(1). <https://journal.unnes.ac.id/sju/index.php/jsi/article/view/17049>
- Keraf, G. (2010). *Diksi dan Gaya Bahasa*. PT Gramedia Pustaka Utama.
- Kridalaksana, H. (2009). *Kamus Linguistik* (4th ed.). PT. Gramedia.
- Parera, J. D. (2010). *Morfologi Bahasa*. Gramedia Pustaka Utama.
- Pusat Bahasa. (2008). *Kamus Bahasa Indonesia*. PUSAT BAHASA DEPARTEMEN PENDIDIKAN NASIONAL.
- Putrayasa, I. B. (2010). *Kajian Morfologi: Bentuk Derivasional dan Infleksional*. Refika Aditama.